

# オプトメトリスト中村さん

「時刻表が見えない」「新聞を読みたい」。病气やけがで視力の低下や視野が狭まる障害が生じるロービジョン(低視力)。県立清峰高野球部員らの動体視力の向上に力を注いだ北松佐々町本田原免の眼鏡店「尚時堂」専務の中村尚広さん(三三)が、今度は日常生活に不自由さを感じる人たちを支援しようと、「ロービジョンケア」の取り組みを本格化している。

(江迎支局・西 隆志)

## ろーかるのずーむ

### 佐々

「チラシの見出しは判別できませんね。少し倍率を上げましょう」。中村さんが「拡大読書器」のダイヤルを動かす。北松鹿町町土肥ノ浦免の主婦、富永徳子さん(五三)は「商品の値段やサイズまでよく分かる」と笑う。富永さんの右目はほとんど見え、左目も強度の近視で、矯正視力が0.2。相手の顔を判別できず「文字を読むのは疲

れる」と読書を避けていた。三年前に中村さんに相談。町の公的補助で一台十九万八千円の拡大読書器を購入した富永さんは「子どもの学校の連絡に返事も書ける」と喜ぶ。

## 低視力に悩む人々を支援

た時点から補助器具使用や訓練を始め、日常生活を支援するのがロービジョンケア」と話す。中村さんは県内で唯一、目の動きを測定し、機能を高める訓練をする資格を持つ「オプトメトリスト」(日本眼鏡技術者協会認定のSSS級眼鏡士)。二〇〇六年の選抜高校野球大会準優勝の清峰高野球部やプロ野球オリックスなどスポーツ選手の活躍を陰で支えてきた。

一方で、「低視力の方と出会い、目に携わる者として『見える喜び』を与えたい」という気持ちから芽生えた。処方せんが要らない拡大読書器や必要な弱視鏡など特殊機器を提供。二十七日から店内に「ロービジョンコーナー」も設置し、焦点距離を測り、残された視力を使う「固視訓練」や「眼球運動」も行う。

だが、当事者や行政の理解が十分に深まっていないのが現状。視覚障害手帳の申請や医療機関の意見書など提出書類が煩雑で時間がかかるなどの課題もある。



拡大読書器で倍率を調整する中村さん(右)。富永さんはチラシの文字が読める喜びを実感している。鹿町町

中村さんは「書類が読めない。行政の対応が不親切と断念したり、補助制度自体を知らない人もいる」と話し、「見える喜びをあきらめないで」と呼び掛けている。問い合わせは尚時堂(電0956・63・22200)。